

gakuto

学塔



2014.Spring

No.132



クローズアップ
自著を語る。「入門英語音声学」
どこから広げよう
各学部の先生からのオススメ本

From Students
がんばりました!図書館展示
「新人の新人による新人のための写真展」を開催しました

ブックロウのPickUpコーナー!!

SciFinder Academic説明会開催報告
三重大学OPACリニューアル
院生向けサービス

News!
春の図書館ツアー開催

特集

企画展示
「三重の風土と文学」



服部範子 先生
人文学部教授



『入門英語音声学』
〈研究社、2012.12〉
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 831.1 / H44

英語の音の塊をほぐし、ステップでリズム

まずは「入門英語音声学」について教えてください。

本のタイトルは出版社の意向で「英語音声学」という学問名称になっていますが、英語学習でよく耳にする「文字を見ればわかるのに音だけだと何と言っているのかわからない」という悩みを少しでも解消できるように、英語の音声の特徴について音声学の理論に基づきながら、できるだけ平易に解説しています。この本の中心である第三章「ネイティブのように聞く10のポイント」では「とりあえずこれだけ知っていると音の塊が今よりずっとほぐれやすくなる」という音の特徴を厳選し、解説を加えています。また、第五章「字余りを作らないために」では英語のリズムを身につけるために足のステップを利用した学習法を紹介しています。これはロンドンの石畳を歩きながら思いついた学習法です。英語が速く聞こえてしまうという方は是非一度、

と思ってしまうと過剰に感じてきました。また、もう一つの思い出は英語の歌を歌おうとしても、歌のスピードについていけなかったことです。例えば、中学の教科書に載っていた「Dry Bones」という黒人霊歌。この歌詞の「connected to your」(ネクテッド ツウユア)という部分が上手く歌えなくて。その二つに対する答えが大学三年生の時、英語の「音声学」の教科書^{※1}に書かれていたのです。「SEE」と「SEA」は昔、発音が違ったという歴史。英語には強く発音するところ、弱く曖昧に発音しているところがある。つまり私は二つ丁寧に発音してあげていたので歌えなかったことがわかり、目の前がぱっと晴れた気がしました。その本の著者は、ちに留学することになるロンドン大学のギムスン教授でした。また、サウンドスペクトログラムといって音を目に見える形にしたものなど、音響音声学のことも書かれていました。今はパソコンのソフトで音声の可視化(見える化)は容易にできますが、こんなこともやってみたいと思いました。これが英語の音声学の研究を始めるきっかけです。

ロンドンの留学生活は心躍る日々でした

どんな学生時代を過ごされたのですか。

私の学生時代はロンドンでの留学生活がすべてといえるほどです。大学三年生の時、学びたい分野が突然見つかったものの、当時の日本では文系系の大学に進んだ後、この分野を学ぶには海外へ行くしかありませんでした。大学寮に二年、イギリス人家庭に二年下宿しました。そのロンドンでの最初の「実験音声学」の授業は驚いたことに「振り子の実験」でした。急いで音波や共鳴のことが書いてある物理の本を買いに本屋へ走った思い出があります。思いがけない体験でした。現地ではイギリス人だけでなく、アジアやアフリカからの留学生とも知り合いになり、今思い出してもわくわくする毎日でした。

中学時代の英語の謎を解いた大学の教科書

では、音声学の研究を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

かなり昔、中学時代の二つの英語の思い出にさかのぼります。二目は英語を習い始めた頃に生じた疑問です。「見る」の「SEE」と「海」の「SEA」という二つの単語は、発音は同じなのになぜか綴りが違う。でも当時、中学生レベルの本で、その疑問を解消してくれる本は何もなく、そんなものか

思いがけない組み合わせで突破口を

三重大生へメッセージをお願いします。

私の場合には大学三年生で突然視界が開け、留學先のロンドンでは物理の本をひもとくことになりました。今、英語のリズムを考察するために二つの数式を用いるのがトレンドとなっています。人生、思いがけない組み合わせで突破口が開けるものです。三重大学は総合大学なので、図書館には各分野の図書が非常に充実しています。時々、自分の専攻の隣接分野、あるいは全く異なる分野の書棚にふらっと出かけて、そしてちょっと面白そうな本を手にとりて覗いてみるというのもいいと思います。100パーセント理解出来なくても、ちょっとアンテナを張る感じですね。総合大学の強みを生かして図書館を利用してもらえれば良いのではないかと思います。

※1 先生が「音声学」を学ぶきっかけとなった本は附属図書館で読めます。
原著：[An introduction to the pronunciation of English] 3rd ed. A. C. Gimson, Edward Arnold, 1980.

【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45
1983.
【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45
1983.
【所在】図・開架・図書ほか 【請求記号】 831.1 / G45

【服部範子先生プロフィール】
三重県立津高等学校卒業。大学在学中に音声学という分野に出会い、石坂記念財団奨学生としてロンドン大学大学院ユニヴァーシティ・コレッジに留学。帰国後、三重大学人文学部文化学科に職を得て現在、三重大学人文学部教授。ロンドン大学より博士号取得。この三月まで放送大学三重学習センター客員教授として社会人の英語学習もサポート。現在、一年生の共通教育英語と人文学部文化学科の専門科目を担当している。主な著者に『社会言語学概論』(くろしお出版、共著)、『はじめて学ぶ社会言語学』(ミネルヴァ書房、共著)など。

ここから広げよう!!各学部の先生からの オススメ本 READING LIST

人文学部 三根慎二先生

猪谷千香 著
『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』
筑摩書房
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 016.2 / I23

「住みたい」図書館、「これまでにない」図書館、「TSUTAYA」図書館、「市民が演じる」図書館、「鳥がまるごと」図書館。公共図書館に対して抱いているイメージはそれぞれだと思うが、近年、従来の伝統的公共図書館とは一線を画す図書館が登場し、社会における公共図書館の位置づけが揺さぶられている。上記の図書館がどのようなものか気になる人は本書を読んでみると良いだろう。

教育学部 松本昭彦先生

阿辻哲次 著
『漢字再入門：楽しく学ぶために』
中央公論新社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 811.2 / A95

「とめ・はね・はらい」や筆順(書き順)など、意味があるのか疑問を持ちながらも、先生に言われるままに覚え(させられ)た漢字についての決まり事が、どのようにして決まったのか、そして実際の所どの程度有効なのか。これら、学校教育と関わり深い内容が豊富で、とてもわかりやすい。漢字について興味を持つ人だけでなく、特に教職を目指す学生には知っておいてほしい知識満載の本である。

医学部 井村香積先生

ダニエル・ゴールマン 著
土屋京子 訳
『EQ:こころの知能指数』
講談社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 141.6 / G61

この著書は「人生の成功は成績やIQではなくEQである」と主張する。社会に出て活躍するにはEQが重要なのだ。本書には、EQに関する具体的な事例が紹介されている。この事例は、人生の歩み方のヒントを与えてくれるだろう。さらに、「EQは教育できる」と書かれている。もし、EQが低かったとしても、教育や経験を積むことで高められるのだ。この本を読み、EQを高め人生の成功をえて欲しい。

工学部 浅野聡先生

鈴木秀夫 著
『森林の思考・砂漠の思考』
日本放送出版協会
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 290.1 / Su96

人間の思考方法は、森林的思考と砂漠的思考に大別でき、森林的思考(例えば仏教)は下から上をみる姿勢であり世界を永遠と、砂漠的思考(例えばキリスト教)は上から下をみる姿勢で世界を有限と考え、異なる思考方法を生み出す根源が風土的条件であることを豊富なデータを用いてわかりやすく解説している。森林の国である日本文化と諸外国との比較文化を考える上で興味深い一冊である。

生物資源学部 田丸浩先生

佐藤健太郎 著
『炭素文明論：「元素の王者」が歴史を動かす』
新潮社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 435.6 / Sa85

本書は冒頭、「化学というのは、どうにも地味な、人気のない学問だ。」という件(くだり)で始まる。次の頁には「周期表」が示され、それ以降は「元素の王者」である「炭素(C)」に関して全編が綴られている。人類は炭素によって生かされ、炭素によって歴史は動かされてきた。地球温暖化が危惧される今日、21世紀は「炭素争奪戦の時代」であることが改めて思い知らされる良書である。

共通教育 太城康良先生

藤沢晃治 著
『「分かりやすい表現」の技術：意図を正しく伝えるための16のルール』
講談社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】 816 / F66

相手に自分の意思をわかりやすく伝える技術は様々な場面で必要とされる。本書は、まず「分かる」という脳内の情報処理の過程を解説し、分かりにくい原因を分析している。次に、実際に分かりにくい表現を改善した事例を豊富に紹介しており、それを見るだけでも十分参考ができる。今後の学業、面接、仕事などのプレゼンをより良く、楽しむためにも、多くの学生に本書を推薦する。

企画展示「三重の風土と文学」



2013年秋、三重大学が所蔵する三重県関係の貴重資料と、津市の石水博物館所蔵の貴重資料をお借りして企画展示を開催しました。開催にあたって、今回ご執筆いただいた附属図書館研究開発室 協力大学教員の人文学部 吉丸雄哉先生をはじめ、関係者の方々には多大なるご協力をいただきました。

展示資料目録 http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/research/exhibit/mfb.pdf

場所ではないので、位置によっては繊細な印刷物を展示するには照度が高い場所があります。いちいち入館許可をとらなくても、閲覧できるので一般来場者に便利ですが、その分セキュリティの心配もあります。石水博物館の本がたいへん貴重なので、私はまさかのことを心配していましたが、杞憂でよかったです。

展示は三年前から行っている附属図書館蔵貴重書の整理事業の成果です。附属図書館は漢籍約300点と和本約1000点を所蔵しています。漢籍のほうはもともと現名古屋大学文学部教授の井上進先生が三重大学在籍中に目録を作られていました。再度、チェックを済ませて、電子化し、全国漢籍データベースへ登録を申請しているのですが、早ければ今年度のうちに館内での一般利用が可能になると思います。和本はカード採りが九割進んだ段階で、目録の完成やOPACへの登録完了は早くて来年度でしょう。目録が完成しましたら、全学で教育・研究に三重大学の貴重書を利用できることとなります。それまでは、このような展示で本の紹介をすることになります。年に、四回ほどのペースで展示ができればいいと思っています。今後も、展示に気がついたら御覧ください。

(人文学部 吉丸雄哉准教授)

2013年秋季展示「三重の風土と文学」は、10月29日(火)から11月26日(火)まで、附属図書館玄関ホールで行われ、全部で23点の作品を展示しました。石水博物館からお借りした3点と個人蔵の2点を除いた残りの18点はすべて三重大学附属図書館の本です。石水博物館の本はたいへん貴重なので、11月13日から19日までの展示とし、残りの期間はパネル展示としました。個人蔵本はどなたの本ですかと時折聞かれました。実を言いますと、私の架蔵本です。

「三重の風土と文学」が全体テーマで、さらに「三重の風土と文学」「伊勢神宮の遷宮と参詣」「津の偉人」の三部にわけました。やはり昨年が遷宮年であることとは意識しました。「伊勢参宮名所図会」や「神都名勝誌」では遷宮の場面を展示しました。「遷宮物語」は遷宮の記録です。昨年は伊勢神宮への参詣者がとりわけ多くて、平成のおかげ参りなどと言われているそうです。おかげ参りの記録「明和神異記」や参宮のガイドブックである「伊勢参宮案内記」「伊勢神宮細見大全」からは、今も昔も変わらないお伊勢さんへの信仰がうかがえます。

「津の偉人」では谷川士清、津坂東陽、齋藤拙堂の三人をとりあげました。三重では伊賀出身の松尾芭蕉や松阪の本居宣長はよく知られていますが、津だけを見て、文学史上に重要な文事をなした人たちがいることを伝えたいと常々思っていました。三人とも教育者として優れていたことも尊敬している理由です。このような偉人たちの業績の顕彰は後世の人間の責務だと思っています。

展示の解題を書くのは何度も経験しているので、何の問題もなかったのですが、私自身は学芸員の資格を持っているわけでもなく、展示の素人であったため、展示作業で頭を悩ませました。玄関ロビーのどの位置に展示ケースを置けばいいのか、どの作品にどの展示ケースが向いているのか、本の順番と順路はどのように設置すればいいのか、照度や湿度はどのように管理すればいいのか、キャプションはどの位置においたらいいのか、などで試行錯誤しながら展示しました。石水博物館の学芸員の龍泉寺由佳さんや本学で学芸員の資格の取得を目指している学生たちからアドバイスをもらえたので助かりました。2013年4月の「藩校の漢籍」展でも感じたことですが、あたりまえの展示をあたりまえに行うのが存外難しいです。

玄関ロビーは、附属図書館の改修によって新たにできたスペースです。素敵な空間ですが、もともと展示用につくられた

吉丸先生から皆さんへ

日本近世文学(江戸時代の文学)を研究しています。とくに18世紀後半から流行する戯作とよばれる庶民文学が研究の中心です。式亭三馬・十返舎一九・曲亭馬琴らの作品をとくに対象にしています。近世文学では未翻刻(くずし字の状態から今の字になっていない)作品のほうが圧倒的に多く、必然的にくずし字で書かれた原本を読む機会が多くなります。本の内容を研究するのではなく、本の形態から本の特徴を考察する学問を書誌学といいます。文学研究にはこの知識も必要になります。



人文学部 吉丸雄哉准教授

美術館や博物館で働く学芸員になるルートから、書誌学を学ぶ人もいると思いますが、私は文学研究から書誌学を学びました。板木に墨をつけて和紙に刷った二、三百年前の本を実際に手にとると、なんともいえない感動があります。これらの古い本は貴重な文化財ですが、市井にまだまだ多く残っています。学生さんのなかで、実家にそういう本があるという人は虫や湿気に気をつけて大事に保管してください。どうしても管理できない場合は、図書館や博物館などに寄贈なさるといいと思います。



貴重書庫での整理作業





ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

SciFinder Academic説明会開催報告

2013年10月22日(火)午前、午後の各1回、附属図書館2階PCコーナーで化学情報データベース「SciFinder Academic」の説明会を開催しました。化学情報協会の講師による丁寧な説明とユーモアを交えた事例紹介は参加者からたいへん好評でした。このデータベースは2014年4月2日よりアクセス数の制限がなくなり、同時に何人でも利用できるようになります。

*詳細は[図書館ホームページ]-[海外文献を探す]-[SciFinder Academic]をご覧ください。



三重大学OPACリニューアル

三重大学附属図書館の蔵書検索システム、OPACが新しくなりました。フルタイトルでの検索がわかりやすくなったり、検索後の絞り込みがワンクリックでできるファセット機能が加わったり、より使いやすく生まれ変わったOPACをぜひご活用ください。



院生向けサービス

大学院生さんに向けた図書館サービス、こんなサービスもあるってご存じでしたか。ご利用申し込みは貸出カウンターまで。

- (1) **研究個室** ～論文の執筆場所に最適!～
全室に持ち込みPC用コンセント、デスクライトを完備した個室をご利用いただけます。
- (2) **特別貸出(論文作成)** ～長期貸出OK～
論文作成用に通常の貸出とは別に10冊まで3ヶ月の間、借りられます。
- (3) **雑誌の一夜貸し** ～3冊まで借りられます～
雑誌は通常借りられませんが、院生・教員に限り「一夜貸し」を行っています。手続きの翌日午前11時が返却期限です。
- (4) **閉架式書庫の利用** ～平日17時以降や土日祝日も利用できます～
研究用図書が数多く置いてある閉架式書庫に入ることができます。利用時間は9時から閉館15分前までです。



研究個室

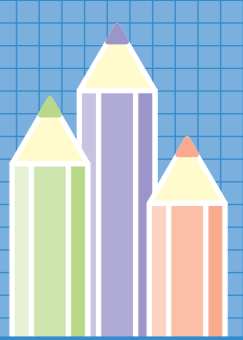


閉架式書庫

※(1)、(2)は学部最終学年の方もご利用いただけます。特別貸出は5冊まで。(4)は学部学生も「書庫内ガイダンス」を受講後にご利用いただけます。



From Students 三重大学図書館



がんばりました! 図書館展示

2013年秋季展示「三重の風土と文学」にご協力いただいた学生さんにお話を聞いてみました。



- Q1.自己紹介をお願いします。
- Q2.展示を行って見て、どうでしたか。
- Q3.吉丸先生ってどんな先生ですか?
- Q4.新入生にメッセージをお願いします。



吉丸ゼミの
ゼミ生です

人文学部 吉丸雄哉先生



人文学部 三輪京平さん

A1.人文学部文化学科3年生の、三輪京平です。専攻は日本近世文学で、中でも妖怪や幽霊などの怪異について興味を持っています。

A2.展示に際してまず書誌をとらなければならなかったのですが、展示するのが和本ですので、今の本のように必ずしも刊記がある本ばかりではなく、そういう本について調べたりするのは大変でした。

A3.基本的には学生の自主性に任せながらも、指導も熱心してくれる、優しい先生だと思います。

A4.三重大学附属図書館は去年改修工事が行われたことで、とてもきれいになり、前以上に使いやすくなりました。私は館内パソコンを使ってよく調べものをしています。とても静かな環境で使えますので、一度は利用してみると良いと思います。



人文学部 武内加奈さん

A1.人文学部文化学科3年、武内加奈です。専攻は近世文学で、中でも江戸時代の絵本である黄表紙について興味を持っています。

A2.刊行年や版元など、書誌学の本をめくりながらも苦戦する所が多く、また現存の少なさから情報がほとんど無い本もあり調査が大変でした。ですが普段は触れないような本を読んだりすることができて、とても貴重な経験になりました。

A3.この展示の時もそうですが、研究についての相談や質問に、とても丁寧に回答して下さいます。私のように手のかかるゼミ生でも等しく面倒を見てくれる、優しい先生です。

A4.改築されてから勉強場所が増え、館内には学生が沢山います。私は1階の端にひっそり存在する机のスペースがお気に入りです。知っている人が少ないのか、いつも静かなのでオススメです。ぜひ探してみてください。

「新人の新人による新人のための写真展」を開催しました

2014年1月27日～31日、附属図書館1Fにおいて三重大学写真部が「写真部新人展」を開催しました。作品は、今年度入部した活動1年目の部員が撮影したものです。玄関には自由作品、1Fコピー機前には「水」をモチーフとした作品を展示しました。心に触れた瞬間を切り取った作品は十人十色。工夫を凝らして自分らしさを表現しました。附属図書館の落ち着いた雰囲気は、本や新聞を読み勉強をするには最適で、様々な人が訪れます。期間中も多くの人が図書館を利用していました。今回、図書館での開催により色々な方に写真を見ていただき、とても嬉しかったです。写真部は、ミーティングや写真展を中心に活動中です。初心者から経験者まで、写真とカメラが好きの人が集まっています。興味やご相談のある方は、ぜひ声をかけてください。



春の図書館ツアー開催

4月

22日

23日

24日

開催時間 12:25~12:50

内 容 図書館の各スペースやサービスの紹介

集合場所 図書館玄関ホール

●学部新入生は、このツアーとは別に「スタートアップセミナー」で図書館ツアーを実施します。

皆さまのご参加を
お待ちしております!



展示図書コーナー新着図書

(2013年7月~12月発行分)

- 廣岡義隆 人文学部名誉教授／『萬葉の散歩みち』 廣岡義隆著. 新典社, 2013.8 [911.12/H 72/3]
- 尾西康充 人文学部教授／『小林多喜二の思想と文学：貧困・格差・ファシズムの時代に生きて』 尾西康充著. 大月書店, 2013.9 [910.28/Ko 12]
- 山崎明日香 人文学部特任准教授／『Das deutsche Nationalbewusstsein des 19. Jahrhunderts und Richard Wagners Tristan und Isolde』 Asuka Yamazaki. Königshausen & Neumann, 2013 [941/Y 48]
- 白石友行 人文学部准教授／『契約不履行法の理論』 白石友行著. 信山社, 2013.9 [324.55/Sh 82]
- 川口敦子 人文学部准教授／『キリシタンと出版』 豊島正之編. 八木書店, 2013.10 [022.3/Ki 54]
- 川口敦子 人文学部准教授／『ポルトガル時代；オランダ時代』 (長崎東西文化交渉史の舞台(ステージ))若木太一編. 勉誠出版, 2013.9 [219.3/N 21]
- 前田定孝 人文学部准教授／『南海トラフの巨大地震にどう備えるか』 (日本科学者会議ブックレット 3)日本科学者会議編. 本の泉社, 2013.10 [369.31/N 48]
- 久野和宏、野呂雄一 工学部名誉教授・准教授／『音と波：その素顔と振る舞い』 久野和宏、野呂雄一、佐野泰之共著. 技報堂出版, 2013.9 [424/Ku 48]
- 船岡正光 生物資源学部教授／『地球マテリアルブック：デザイン×科学のダイアログ』 日本科学未来館, 2013.7 [404/C 44]
- 木村妙子 生物資源学部准教授／『はじめての結晶づくり』 木村妙子、武藤実佐子著. 楽知ん研究所, 2013.8 [432.6/Ki 39]
- 藤田昌志 国際交流准教授／『日本語と中国語の誤用例研究』 藤田昌志著. 朋友書店, 2013.7 [810.7/F 67]
- 川口祐二 附属図書館研究開発室客員教授／『海女、このすばらしき人たち』 川口祐二著. 北斗書房, 2013.10 [384.3/Ka 92]

【見かた】 ● 寄贈者 所属／『書名』 著者名. 出版社(者), 出版年月[請求記号]

編集後記



●表紙の写真：2013年秋季展示にご協力いただいた三輪さん(左)と武内さん(右)です。共に人文学部吉丸先生の研究室のゼミ生です。キャプション作成のために様々な資料を調べてくれました。

図書館玄関ホールの階段付近の壁面は、改装前の図書館の特徴的な内装が残っている場所のひとつです。そこにフクロウの像が飾られていることにお気づきでしょうか。これは、本学の名誉教授であり、大学のシンボルマークもデザインされた宮田修平先生から、2005年8月にご寄贈いただいたものです。翌年には、この「教育の神様」と題された像に、より親しみを感じていただくための愛称を募集し、「フクロウ」と名付けられました。イラスト化されたフクロウには様々なヴァリエーションが生まれ、図書館の広報誌や講習会資料などで大活躍しています。昨年の大改修で見違えるように新しくなった図書館の片隅から、今日も白いフクロウが、勉学に励む皆さんの姿を静かに見守っています。(※ここに掲載した図案は、本誌のバックナンバーに掲載されたイラスト版のフクロウの姿をご覧になられた宮田先生が、新たに書き下ろしてお送りいただいたものです。宮田先生、ありがとうございます。)